

②放射性廃棄物保管場「ブリヤコフカ」及び予定地「ヴェクトル」視察 (10月6日(木))

●ブリヤコフカ放射性廃棄物処理場

○スオービン・ボリス現場責任者

ここには、96ヘクタールの用地があり、これが核廃棄物の処理場です。

30の埋め立ての部分がございます。技術的につくられたもので、穴を掘つております。150メートル×60メートルの長方形の形で、深さは12メートルです。この下に粘土層の基盤部がございます。その上に砂の層があります。それは、粘土層の方へ放射線の被曝が行かないように砂の層もつくっているのです。その上に、赤い斜線がありますけれども、放射性物質を埋め立てます。さらにその上に砂をかけ、平らにならし、そしてまた、さらにその上を粘土で覆います。そして、その上に植物などの生えるような自然の土を盛り立てます。

77の井戸を掘りまして、そこで地下水の監視を行います。下の地下水にしみ込みがないかどうかを検査するために、そこで水をとって監視いたします。現在、25年たちますけれども、漏れというものは観測されておりません。

いかにして放射性廃棄物を受け取ってその後処理するかというのを、少し流れを説明します。



まず、特別の車両によりまして、放射性の廃棄物が運ばれ、こちらのカウンターで、重さをここではかります。上部にございます線量計によりまして、放射線量もはかります。このように核廃棄物ごとにパスポートと申しますが、書類をつくります。その後、その処理が行われまして、廃棄物を積みおろすとい

うことです。

この緑色のところですが、現在、それが全部埋め立てられて使われております。ピンク色のところは、廃棄物はありますけれども、上の土盛りをまだしていないところです。黄色とピンク色のところは、半分土盛りをしている過程です。



二つ広場がございますが、そこには、事故があつてすぐのときにいろいろな機材、車両等を投入いたしました。それを保管しておく一時置き場という形の場所があります。

15人の職員がここで常時働いておりまして、廃棄物の受け取り、監視、埋め立て等に当たっております。以上が、簡単な説明です。

○太田議員

何ベクレルから何ベクレルまでのものをここに置いているのですか。

○スオービン・ボリス現場責任者

中低濃度のものです。

○太田議員

中低濃度というのはどのくらいですか。

○スオービン・ボリス現場責任者

この情報というのは公式には出していません。私が言えるのは、低い、中ぐらいということくらいです。

○太田議員

今持ってくるもので多いのは何ですか。例えば、さっきここにあった、家屋がありますが、ああいうものは持っていったりするのですか。

○スオービン・ボリス現場責任者

発電所を含む30キロ圏内にあるもので放射線の含まれているもの、もしかしたら木かもしれないし、コンクリートかもしれないし、鉄骨かもしれない、そういういろいろなものが含まれたものが持てこられます。

○松野議員

日本の福島で今、各小学校とか中学校の表土を裏返しにしているだけで放置しておりますが、どう感じますか。

○スオービン・ボリス現場責任者

例えば、ここでも上下ひっくり返しても、下に地下水がなければ、300年でも大丈夫だとは思います。

25年の間に、森の中では、25センチ浸透いたしました。つまり、25年間で25センチ移動して、下に浸透しました。この粘土層は1メートル半あります。

○小平団長

被爆の心配はないのでしょうか。

○スオービン・ボリス現場責任者

もう慣れました。自分がやらなくても、誰かやらないといけないわけですから。



●ヴェクトル中間処理施設

○メレニック・ニコライ現場責任者

ここは、核廃棄物の中間処理施設ですが、廃棄物の長期にわたる保管を念頭に置いております。約300年以上を想定しております。現在、建築の最後の段階に入っております。

廃棄物は、おけ状のコンクリートに閉鎖された状態で運ばれてきます。その線量管理、保管等がここで行われます。たくさんの人間にに対する放射線被曝のないような処理もなされております。万一漏れた場合、作業員たちの被曝がないように、その対策もしております。これが外から見た状態でございます。

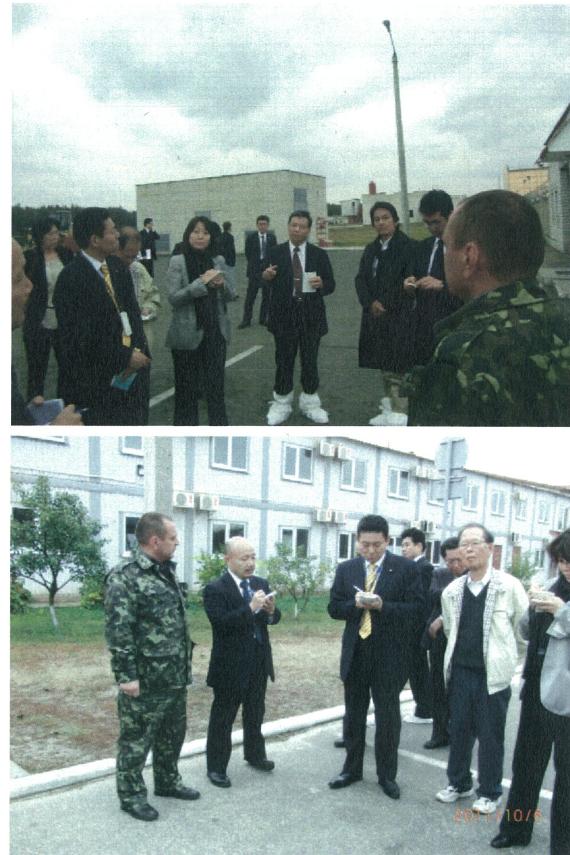


黄色い建物がありますが、そちらの方へコンテナが運ばれます。

建物の地下には、例えば地下水が入り込まないようにするコントロール施設もございます。二つの施設がありまして、それを全体で囲んである覆いの建物がありまして、水が入り込んだらここでポンプでくみ上げるというような施設もございます。もしも水分が出てくれれば、ポンプでくみ取って、それを検査して、それをきれいにして出します。

地下2メートルぐらいのものです。

【写真】ニコライ現場責任者から説明を聴取する議員団



○質問

コンクリートの厚さはどれぐらいあるのですか。

○メレニック・ニコライ現場責任者

私は技師ではないので、どれぐらいかはちょっと言えません。

○質問

さきほどの施設（処分場）との一番の違いというのは何でしょうか。

○メレニック・ニコライ現場責任者

ここは、閉鎖された建物の中にある保管施設であります。向こうは、地面に穴を掘って埋めるという施設であります。もちろん、それは粘土で覆っておりますので、そこへ水が入り込まないようにはしておるわけですけれども、オープンの状態であります。ここは建物の中の施設です。

○質問

運ばれてくるものは一緒なのかどうか。

○メレニック・ニコライ現場責任者

それは言えない。というのも、ブリヤコフカの方ではどういったものを処理しているのか、私は知らないから。

○質問

先ほどのところは、発電所の核廃棄物の処理場というお話をしたが、核廃棄物というのは使用済み核燃料の方のことなのか、それともチェルノブイリの発電所のがれきの類のことなのか、どっちの方ですか。

○メレニック・ニコライ現場責任者

燃料ではありません。ほかの廃棄物はありますが、燃料はありません。

○小平団長

どうもありがとうございました。

